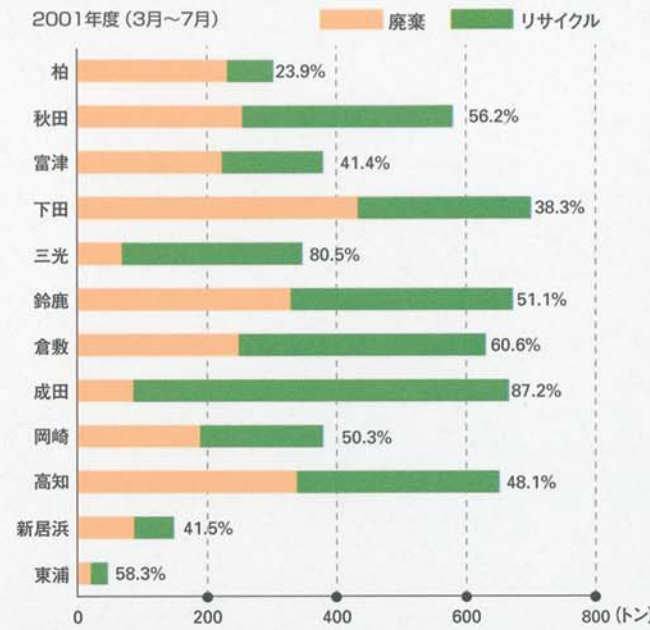


2000年度の活動状況/2001年度の目標

	2000年度 (2000年12月~2001年2月)	2001年度の目標・計画
1. 資源のリサイクル・廃棄物の削減	①生ゴミ排出ゼロに向けて 処理機器導入状況を調査	処理機器使用率の調査 処理手順の作成 テナントへの協力依頼 処理機器の新機種情報収集
	②全事業所から排出される廃棄物ゼロ(全量リサイクル)に向けて 分類種類を調査 最終処分を確認 廃棄処理とされているものを特定・処分場を視察	廃棄処理のリサイクル化目標策定
2. 省資源の推進	①コピーの使用削減 全事業所で使用量を調査 コピー使用手順を作成・教育 業務見直しのミーティング実施	2000年度対比5%削減 削減目標策定 手順教育の徹底 メールでの情報伝達の徹底
	②コピー用紙の使用量削減 全事業所で使用量を調査 裏面利用ルールを告知 個人情報取り扱いルール策定 業務の見直しのミーティング実施	2000年度対比15%削減 削減目標策定 予備コピー・多めのコピー中止 両面コピーの徹底
	③水道使用量削減 使用量を調査 節水設備の有無を調査 節水教育を実施	2000年度対比4%削減 水量の調整検討 節水設備なしの場合、導入検討 水の使い方見直し 流し放しの禁止
3. 省エネルギーの推進	電力使用量削減 全事業所で使用量を調査 省エネ設備導入状況を調査	2000年度対比1%削減 省エネ方法の年度別計画検討 パソコンの取り扱いルール策定と徹底
4. 環境法規制に関する自主基準制定	①水質測定・ばい煙測定・廃棄物マニフェスト管理に関する自主基準制定 環境法規制洗い出し マニフェスト伝票手順作成 規制値を調査	水質・大気検査基準の策定 マニフェスト伝票の統一書式(基準値入り・遵法の表示入り)
	②大店立地法に関する自主基準制定 大店立地法の内容を調査 関連法規制を調査 要求事項洗い出し	要求項目チェックリスト作成・新店での実験的導入 東浦SCでの検証・高岡SCでの導入
5. 環境保全型資材の購入推進	①事務用品をトップバリュ「共環宣言」に切り替え 全事業所で使用量を調査 グリーン購入ネットワークへ参画	事務用品のグリーン購入率を40%に引き上げ トップバリュに準じる事務用品の購入基準の策定 最新情報の収集
	②新店建設時の環境配慮型資材導入 環境配慮型資材の導入状況洗い出し	入手可能な環境配慮型建設資材の一覧表作成 導入済資材の表示検討(環境情報の提供)
	③再生素材の制服導入 発注量を調査 制服パターンを整理	女性制服・SCインフォメーション制服を再生素材へ切り替え(6月1日に実施済)
6. 植樹活動の推進	82,000本植樹(累計419,000本)	127,000本植樹 (2000年度との合計209,000本/累計546,000本)
環境情報の公開	①環境会計の導入 環境会計の進め方を検討 コスト算出方法を策定	想定項目の検証開始 環境コスト項目の策定 環境コストの集約作業を通じコスト一覧表を作る
	②環境報告書の発行 環境報告書の作成を検討	第1次環境報告書を発行(8月21日に実施済)

1. 資源のリサイクル・廃棄物の削減

ゴミのリサイクル率



SCにおける廃棄物の分別(13項目)

1	生ゴミ
2	段ボール
3	雑芥(分別不能な可燃ゴミ)
4	廃プラスチック
5	ビン
6	缶
7	発泡スチロール
8	廃油
9	リサイクルできる紙類
10	粗大ゴミ
11	その他不燃ゴミ
12	廃蛍光灯
13	廃電池
店	ペットボトル
頭	食品トレイ
回	アルミ缶
収	牛乳パック

生ゴミ処理機導入状況

SC名	メーカー	導入機種	処理能力	台数	導入日
柏	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	1	1997年 5月30日
秋田	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	2	1998年10月25日
富津	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	1	1995年 9月14日
下田	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	1	1996年 1月25日
鈴鹿	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	2	1997年 2月 1日
三光	日立製作所	生ゴミ処理機 GMR-200C	200kg/日	1	1997年 2月 1日
	日立金属	炭化装置 MKC-1000	300kg/日	1	
倉敷	ブラッツ	グリーンウェブ GE-100型	1000kg/日	1	1999年 9月21日(開店日)
	佐々木エンジニアリング	生ゴミ真空乾燥機メカースMA-1300型	1000kg/日	1	
成田	正和薬品	KANシステムK-500(内城菌による発酵分解)	500kg/日	2	2000年 3月18日(開店日)
岡崎	正和薬品	KANシステムK-500(内城菌による発酵分解)	500kg/日	1	2000年 9月22日(開店日)
高知	佐々木エンジニアリング	生ゴミ真空乾燥機メカースMA-1300型	1000kg/日	2	2000年12月23日(開店日)
新居浜	佐々木エンジニアリング	生ゴミ真空乾燥機メカースMA-1300型	1000kg/日	2	2000年 6月26日(開店日)
東浦	東芝テック	分解消滅型生ゴミ処理機	1000kg/日	1	2001年 7月19日(開店日)
		生解消滅型生ゴミ処理機	500kg/日	1	

※ジャスコ設置台数を含みます。



生ゴミ処理機(1日処理能力/200kg) 秋田SC

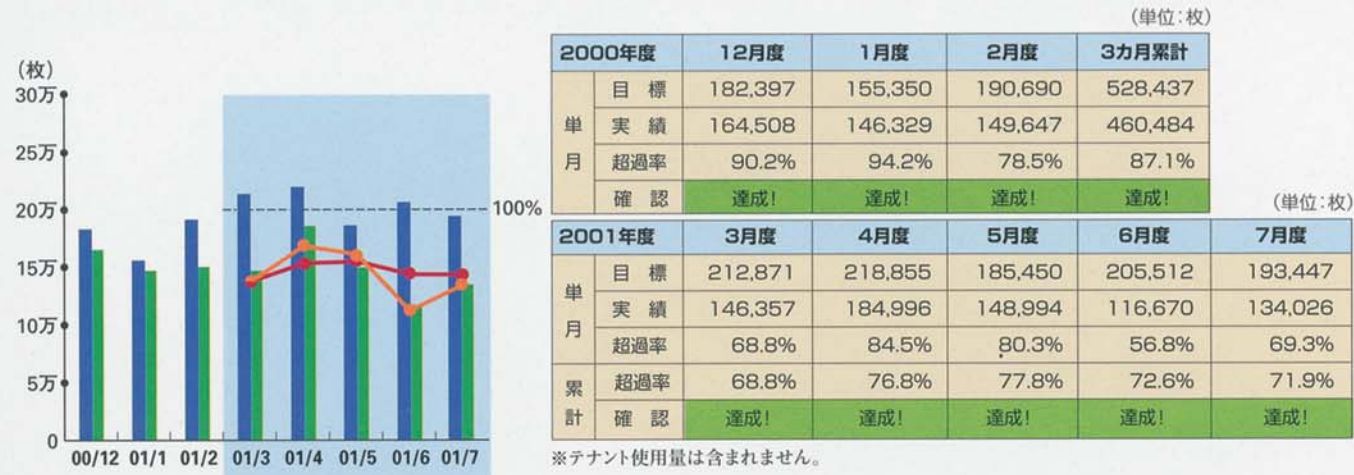


生ゴミ処理機(1日処理能力/1,000kg) 東浦SC

注)目標数値には昨年度実績が発生していないSCは含まれておりません。開店後13カ月目から目標値が発生します。

2. 省資源の推進

① コピー使用量



② コピー用紙購入量

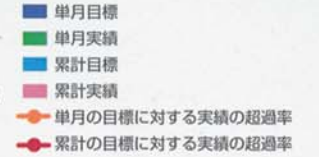


③ 水道使用量



2001年度水道使用量・電気使用量の大幅な超過の原因

「大店立地法」の施行による営業日数の増加などが主な要因です。今後は同規模での比較とし、引き続き削減に取り組んでまいります。



3. 省エネルギーの推進

電気使用量



削減目標達成の判断基準は次の通りです。

達成	超過率が100%以下(=目標達成)
観察	超過率が100~106%未満で要因等状況を観察する
不適合	超過率が106%以上で「不適合」となります。
重大な不適合	不適合が3回続いた3回目と、その翌月が「適合」または「観察」になるまで「重大な不適合」となります。

*超過率の計算式
超過率(%)=実績値÷目標値×100

2000年度は単月で判断し、2001年度からは累計超過率で判断しています。

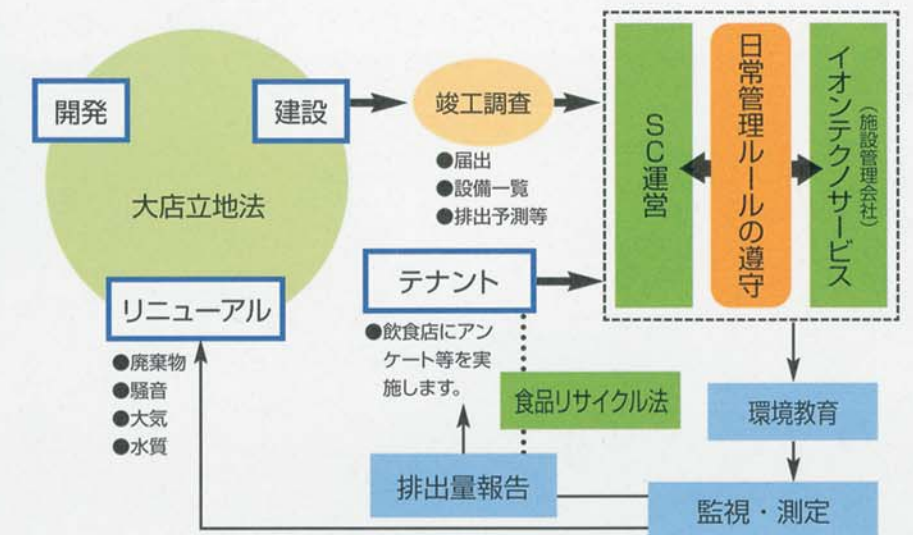
左記判断基準以外の不適合・重大な不適合は次の通りです。

- 不適合
- 事故が発生した場合
 - 環境目的・目標に定めた監視・測定項目を予定通りに実施・管理できなかった場合
 - 規定や手順が遵守されなかった場合
 - 内部監査や外部認証機関の審査結果で不適合を指摘された場合
- 重大な不適合
- 法規制が遵守できなかった場合(違法の場合)
 - 緊急事態が発生した場合
 - 監視・測定時、不適合が3回続いた3回目およびそれ以降継続して不適合の場合

4. 環境法規制に関する自主規定制定



事業活動上で遵守する法規制等(4ページ)のうち、今後のSCにおける環境負荷削減の要となる「大店立地法」への対応を本年度の重点課題とし、当社独自の環境基準を制定します。



5. 環境保全資材の購入推進

再生素材の制服導入

1着あたりの再生素材使用状況

		1人あたり配布枚数	重量(g)	再生PET樹脂混率	1人あたりペットボトル換算(本)
一般制服	ベスト	2	240	70%	5.6
	スカート	2	240	70%	5.6
	半そで	4	130	65%	5.6
	長そで	4	160	55%	5.9
	合計				22.7
着替え含め1人あたり2ℓペットボトル22.7本使用					
インフォメーションカウンター用	夏用				
	ジャケット	2	343	65%	7.4
	スカート	2	178	65%	3.9
	ブラウス	4	96	25%	1.6
	合計				12.9
冬用	ジャケット	2	476	70%	11.1
	スカート	2	213	70%	5.0
	ブラウス	4	193	55%	7.1
	合計				23.2
	インフォメーションカウンター制服1人あたり2ℓペットボトル36.1本使用				



一般制服(左)、インフォメーションカウンター用(右)



制服素材には、インフォメーションカウンター夏用ブラウスを除き、「エコマーク」認定素材を使用しています。

2001年6月1日導入時の一般制服着用対象の従業員は171名で、再生使用されたペットボトル(2ℓ)は1人あたり22.7本、延べ3,881.7本となっています。また、インフォメーションカウンター用の制服着用対象従業員は53名で、再生使用されたペットボトルは1人あたり36.1本、延べ1,913.3本です。合計で、5,795本のペットボトルをリサイクル使用したことになります。

6. 植樹活動

イオンモールでは、SCの敷地内に各地域に自生する樹木の苗木をお客さまとともに植樹する「イオン ふるさとの森づくり」を進めています。

「イオン ふるさとの森づくり」植樹実績

SC名	植樹本数	実施日
柏	72,388	1992年 5月 6日
秋田	43,127	1992年 5月 2日
富津	12,972	1993年 4月 11日
下田	5,021	1994年 5月 30日
	45,654	1995年 4月 2日
鈴鹿	35,751	1996年 4月 29日
三光	36,658	1996年10月 27日
倉敷	69,663	1999年 4月 29日
成田	46,625	2000年 3月 5日
岡崎	27,886	2000年 9月 3日
	21,093	1995年 9月 10日 (ジャスコ岡崎南店開店前に実施)
高知	23,896	2000年12月 3日
新居浜	36,305	2001年 4月 30日
東浦	22,832	2001年 5月 27日
合計	499,871	



2001年4月18日、ISO14001取得。

環境管理の国際規格を満たす企業として認められました。

【(株)日本環境認証機構(JACO) 本審査の総評】

主任審査員 (株)日本環境認証機構(JACO) 関西認証部 主席 牧川安之

イオンモール株式会社の環境マネジメントシステムが構築され、かつ運用において、有効に機能しはじめたことが確認できました。

特に全国に展開する大規模ショッピングセンターが、地域社会からその存在を認知されコミュニティのひとつとなっていることを強く認識できます。さらに環境配慮の視点からも、イオンの森の育成、生ゴミリサイクルなど各所で推進しています。また、電気、水、廃棄物削減、段ボール、ピン、

リサイクルなど単に管理側だけの活動にとどまらず、入店している専門店にも幅広く呼びかけて継続的に改善を進めていること等が大きく評価できます。

また、保険事業についても業務改善にまで踏み込んだ活動の状況が確認できました。

さらに内部監査は、チェック機能および高い指導性を発揮しており、その指摘の適切さや是正などは有効性の高いものです。

以上により、全事業所での環境マネジメントシステムはISO14001規格の要求する事項に適合しているとともに、有効に稼働し始めていると評価できます。



本審査(岡崎SC)



SC設備本審査(柏SC)



本審査(本社イオンタワー)